

# 全国建具 平成24年度第2回常任理事会

## 組織増強と財務基盤強化を訴える 組合員の実態調査の実施を承認



挨拶に立つ上中会長

全国建具組合連合会（上中節彦会長）は1月18日、静岡県熱海市の水葉亭にて平成24年度第2回常任理事会を開催した。

常任理事会は太田明専務理事の司会で進行。近藤明敏東海ブロック協議会会長の開会のことは、物故者へ黙祷を捧げた後、主催者を代表して上中会長が挨拶。「昨年は衆議院選挙が行われ、自民党政権が誕生した。安部首相は金融緩和、財政再建、成長戦略の三点を打ち出している。我が業界の三本の矢と言えば会員の増強（県連の全員参加）、保険の強化（自動車保険への加入数増加）、各ブロックの成長となる。会員企業の理

解と協力を求めたい。我が業界も建具への愛情とプライドを持って仕事をして欲しい。我々は技術を使って製造している。値引き合戦している業界と言われないよう、良い製品を良い値段で買ってもらう努力をするようにしたい」と語り、過当競争を脱し、建具業界全体の収益構造改善を説いた。

次いで第57回福岡大会の紀井威晴実行委員長が挨拶に立ち「福岡大会には多数の組合員の来場があり、皆様の協力に深く感謝する。鳥取大会もあと半年で開催となる。是非、鳥取大会にも協力をお願いしたい」全国の組合員の協力を伝えると共に、今年6月に開催される第58回鳥取大会への参加を呼びかけた。神馬基金の奨励金交付では、上中会長から鳥取大会の田中修二実行委員長に奨励金が手渡され、田中実行委員長は「鳥取大会の準備は着々と進んでいる。是非とも鳥取に協力をお願いしたい」と、全国の組合員に大会参加と建具展示会への作品出品を依頼した。

全国建具本部からの報告では、平成25年1月7日現在の会員数及び建具報購読者数を発表。会員数は全国

で2459名であり、平成24年度の予算で計上した2500名を若干下回っている。秋の叙勲・褒章において、建具業界関係者から福井の川端佐右工門氏と埼玉の前田猛見氏が旭日双光章、茨城の馬場先常夫氏が黄綬褒章を受章。また、平成24年度の卓越技能者には静岡の谷口泰幸氏が選ばれた。第50回技能五輪全国大会には6選手が参加。第1位は北海道の福原勇太選手が獲得した。優秀施工者国土交通大臣顕彰には建具業界から2名の候補者を挙げていることなどが発表された。

全国伝統建具技術保存会を代表して横田栄一会長が挨拶。「保存会の活動を続けてきて関連団体との交流も増えてきた。保存会の存在も各方面に認知されるようになり、文化財の修復に関する見直しも増えてきた」と保存会の活動実績を評価。全国建具青年部からは河島隆志青年部会長が「昨年の中央研修会には多くの人に参加してもらった。よい戸会との合同企画である建具金物マイスター制度も67人の認定者を出すことができた。今後は他の金物メーカーとも交渉して制度を充実させていく」と述べ、昨年の活動内容を報告。

## 第27回技能グランプリ

# 建具競技の課題は「親子屏風」

## 昇降盤はホゾ加工のみの使用に限定

競技時間は例年より30分延長

中央職業能力開発協会（立石信雄会長）などの主催による第27回技能グランプリが2月22日から25日の4日間に渡って千葉県千葉市美浜区の幕張メッセを主会場として開催される。競技実施に先立ち、この程、建具職種の競技課題が発表された。

技能グランプリは特級、一級及び単一等級技能士が有する技能の一層の向上を図ると共に、その地位の向上と技能尊重気運の醸成に資するこ



前回の技能グランプリの競技風景

とを目的として開催される。技能五輪全国大会が青年技能者（原則23歳以下）を対象とした技能競技会であるのに対し、技能グランプリは年齢に関係なく、熟練技能を競う文字通り全国規模の技能競技大会であり、大会の優勝者には内閣総理大臣賞、厚生労働大臣賞などが贈られる。

今回の競技職種は建具や家具、建築大工などの建築系職種、和裁や寝具などの裁縫系職種、日本料理やレストランサービスなど料理系職種などを合わせ30職種。2月22日に開会式と競技会場の下見を行い、23日から24日までが実際の競技。25日は成績発表及び閉会式となる。

建具職種の競技課題は引き違いと嵌め殺しの障子を組み入れた親子屏風。支給材は米ヒバとし、腰板のみ杉になる。今回、課題発表が遅くなった理由は昨年の技能五輪において昇降盤の使用において怪我人が出た関係上、使用する機材類の安全確認を徹底したことに起因する。昇降盤はホゾの加工のみに限定し、溝の加工は電動小穴カッターやトリマで行うことになった。このため、溝の加工は手元の電動工具のみの使用となり、作業中に手道具が動いている場

合も考えられる。競技者は各人の作業台において工具に対する注意が必要となる。

競技時間は例年よりも30分長くし、標準時間12時間、打ち切り時間12時間30分に設定。建具競技には24名が出場する予定。課題に関する注意事項及び仕様は次の通り。

### 注意事項

① 図示されていないものは、慣例に従い工作する。  
② 割り込み、すみ付けはすべて競技会場で行う。

③ 原寸図の型板は使用禁止とする。

④ 安全には十分配慮すること。競技時は作業服、帽子等を着用するものとし、木工機械（テーブル傾斜丸鋸盤）や電動手持ち工具の使用に当たっては、保護メガネを使用し、競技委員の指示に従い、安全に作業を行うこと。

⑤ 木工機械（テーブル傾斜丸鋸盤）の使用に関してはホゾ引きのみとし、溝加工は電動小穴カッター（溝きりカッター）または電動工具トリマを使い製作する。工具用の刃物、治具などは持参すること。

⑥ 土居の製作には電動ジグソーを